

令和 8 年度一般選抜入試

『歴史総合、世界史探究』出題意図

1. 出題の基本方針

本問題は、高等学校「歴史総合」および「世界史探究」で学習する基礎的・基本的事項の定着を確認するとともに、歴史的事象を時代的背景や地域的文脈のなかで理解し、複数の出来事に関連づけて考察する力を測定することを目的とする。

単なる語句の暗記にとどまらず、歴史上の人物・国家・事件・制度などを相互に関連づけ、政治・外交・社会・文化の変化を総合的に把握できるかどうかを重視した。

2. 出題範囲とテーマ

・古代から現代までの世界史的通史の理解

後漢末から魏晉南北朝に至る中国史、フランク王国と西ヨーロッパ世界の形成、モンゴル帝国の拡大、19 世紀ヨーロッパの国際秩序、第二次世界大戦とファシズム、戦後世界と冷戦、中国現代史など、古代から現代に至る主要な時代・地域を幅広く出題した。

・東アジアと世界との関係の重視

日本の開国、ロシアの東方進出、清朝と欧米諸国の関係、モンゴル帝国と中国・中央アジア・西アジア・ヨーロッパとの関係、現代中国の政治変動などを取り上げ、東アジア史を世界史的な視野から理解できるかを問うた。

・近現代史・国際関係史の比重

第二次世界大戦、ファシズムの台頭、冷戦、ベトナム戦争、アジア・アフリカ諸国の独立、文化大革命など、現代世界の形成に関わる重要事項を出題し、現代社会を理解するために必要な歴史的基礎知識を確認した。

3. 設問形式とねらい

・資料読解問題

写真、グラフ、地図、風刺画などを用い、提示された資料を歴史的知識と結びつけて読み取る力を問うた。

・通史的知識の確認

各時代・地域における基本的な人名、地名、王朝名、事件名、条約名、制度名などを問うことで、高等学校段階で身につけるべき世界史の基礎学力を確認した。

・思考力・判断力の評価

正誤判定、年代整序、組合せ問題、誤文選択などを組み合わせることで、単なる一問一答的な知識ではなく、歴史的事象の因果関係、前後関係、地域間のつながりを理解しているかを問うた。